

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	柿蔭山房公開活用事業			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-01-10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町文化財保護条例、文化財保護法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何をを行うか)	町指定文化財「赤彦の家(柿蔭山房)」を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代へ伝承させるとともに、島木赤彦とゆかりの人々に関する付帯事業の実施を通じて文化財を大切に残し伝えていくことへの理解の普及と啓発を図る。 併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標 実 績 達成率	200 114 57.0%	200 270 135.0%	200

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	924 千円	569 千円	566 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.30 人 2,008 千円	0.33 人 2,178 千円	0.30 人 1,968 千円
事業費合計 C (A+B)		2,932 千円	2,747 千円	2,534 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		2,932 千円	2,747 千円	2,534 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 当町が所有する町指定文化財である。
公平性	A	適切である 法及び条例の趣旨に沿い、建物内部の特別公開を通じて活用を図っている。なお、特別公開は期間曜日限定であるが、期間以外も事前に連絡をいただくことにより内部公開を行っている。また本館の入館料は無料である。
効率性	A	適切である 特別公開期間中はシルバーへ委託することで、期間外は職員が出向くことで経費節減を図っている。
達成度	A	目標値以上である 地域行事での利用などがあることから、特別公開がたいが地域住民に知れ渡ってきたと思える。

総合評価	拡 充	法及び条例の趣旨に基づき、今後も適切な維持と保存を図るとともに、町内外を問わず多くの方へ地域の歴史文化情報を発信する施設として、地域の文化遺産を体感する場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-04-05-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町博物館条例、博物館法、町文化財保護条例、文化財保護法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域の貴重な財産である資料(文化財)を次世代へ確実に伝えていく施設として、また収集、公開、教育普及事業及び調査研究を通じて地域の歴史文化を学習する拠点として、適正な運営を図る。併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
		運営に係る必要経費であることから、指標設定は困難		目標 実績 達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算	
事業費	事業費 A	6,797 千円		5,827 千円		6,509 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	4.00 人	5,263 千円	4.00 人	4,717 千円	4.00 人	5,166 千円
	正規職員人件費 B	0.30 人	2,008 千円	0.27 人	1,782 千円	0.30 人	1,968 千円
事業費合計 C (A+B)		8,805 千円		7,609 千円		8,477 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		8,805 千円		7,609 千円		8,477 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない 法に基づく登録博物館として、また町内博物館施設ネットワークの本館として、地域の歴史文化の適切な伝承及び文化遺産を活かしたまちづくりの推進を中心となって図るためには、直営による運営は欠かせない。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である 法及び条例の趣旨に沿い、公平に運営している。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である 文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び平成30年度策定「下諏訪町立博物館基本的運営方針」に基づき適切に運営している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)		

総合評価	拡 充	地域の歴史文化を保存伝承する施設として、また地域の歴史文化に関する知的要求に応える学習施設として、また当町の魅力を体感しに来ていただけるよう、きっかけ提供の場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	博物館が所管替えにより産業振興課の所管となるため。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の活動				担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-04-12-01・14-01				担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直営	委託	その他	
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	町博物館条例、博物館法					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域住民との協働、観光部署や関係団体との連携により、地域住民が地域の歴史文化への理解をさらに深め、悠久の歴史を有するこの地を自慢に思ふ心をさらに育めるよう、また町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、魅力に触れに来ていただけるよう、展示や講座等の事業の展開を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目標	5,000	5,000	5,000
				実績	3,535	3,571	
				達成率	70.7%	71.4%	

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	856 千円	696 千円	773 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.30 人 2,008 千円	0.33 人 2,178 千円	0.35 人 2,296 千円
事業費合計 C (A+B)		2,864 千円	2,874 千円	3,069 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	41 千円	46 千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		2,823 千円	2,828 千円	3,069 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B 町以外では行えない	博物館法の趣旨に沿って行うものであるが、実施に当たっては地域との連携及び協働により行っている。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	地域の歴史文化に関する多種多様なニーズの把握に努めている。また参加費については保険代とコピー代相当額のみと、必要最低限の負担としている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	B 検討の余地がある	利用者の増には、さらなる周知と内容の魅力化が必要。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下である	入館者数は、対前年度比で増とはなったが、参加者が事業を経て何を得たのかという点で魅力を伝えきれなかった。

総合評価	拡充	早期に企画内容を固めることにより、興味をそそるような周知を図る。また事業参加をきっかけとして地域の歴史文化を再認識できるよう内容を充実させるとともに、観光部署との協調により、まちあるきへと誘う観光的視点を加味することで町内外を問わず多くの方に参加していただける事業を展開していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡充	博物館が所管替えにより産業振興課の所管となるため。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館資料の保存整理			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-04-16-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町博物館条例、博物館法、町文化財保護条例、文化財保護法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域に残され、伝えられてきた貴重な財産である「文化遺産」を適切に保存するとともに、活用を図れるよう整理し、調査研究を推進する。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	資料整理数	資料カードを起票した数	枚	目 標	100	700	350
				実 績	690	290	
				達成率	690.0%	41.4%	

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	261 千円	62 千円	87 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.40 人 2,678 千円	0.32 人 2,112 千円	0.35 人 2,296 千円
事業費合計 C (A+B)		2,939 千円	2,174 千円	2,383 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		2,939 千円	2,174 千円	2,383 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	博物館法の趣旨に沿って行うもの。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	資料の収集及び文化財の保存は、所有者の御厚意により成り立っている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、 事業が効率的に行われているか	A 適切である	集中整理期間を設けるほか、博物館実習や職場体験の場で本物の資料を扱うことと合わせ整理作業を行っていただくことにより、効率よく整理を進めている。
達成度 事業の活動成果は目標 を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下 である	文書資料の整理が一段落し、民具等の資料整理に入ったことから作業時間が長くなり、資料カード起票数が対前年度比で減少した。しかし着実に整理作業は進んでいることから、資料整理を事業と組み合わせる方法を含め継続していく。

総合評価	現状維持	継続して進めることにより、未整理資料の数を減らしていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔遺跡の管理			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-06-16-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町文化財保護条例、文化財保護法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国指定史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代へ伝承せせるとともに、文化財を大切に残し伝えていくことへの理解の普及と啓発を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位	目 標	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		国指定文化財の維持保存に係る必要経費であるため指標設定は困難		実績 達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算	
事業費	事業費 A	70 千円		132 千円		186 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.15 人	1,004 千円	0.12 人	792 千円	0.25 人	1,640 千円
事業費合計 C (A+B)		1,074 千円		924 千円		1,826 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	
		県の負担	千円	千円	千円	千円	
		町の借入	千円	千円	千円	千円	
		その他	千円	千円	千円	千円	
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		1,074 千円		924 千円		1,826 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	A	法律で義務付けられている 国有林内に所在していることから、文化財保護法の規定により当町が管理していかなければならない。
公平性	A	適切である 国有林内に所在していることから、遺跡地の利活用については制限される。
効率性	A	適切である 国有林内に所在していることから、維持管理については計画性と効率性が求められる。
達成度		事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)

総合評価	現状維持	法の趣旨に基づき、今後も適切な維持と保存を図っていく。 制限はあるが、多くの方に遺跡を体感いただけるよう、可能な範囲で事業化を図っていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	宿場街道資料館の管理運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-08-05-01・10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直営		
事業の開始・終了	年	月	～	年	月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)
根拠法令等の名称	町博物館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	宿場の機能や生活、宿場で起きた大事件などを紹介する施設として、適切な維持管理を図るとともに、江戸時代の下諏訪を学習できる場として事業展開を図る。 併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目標	8,000	10,000	11,000
				実績	11,767	12,796	
				達成率	147.1%	128.0%	

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	6,110 千円	5,656 千円	673 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.25 人 1,674 千円	0.33 人 2,178 千円	0.30 人 1,968 千円
事業費合計 C (A+B)		7,784 千円	7,834 千円	2,641 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		7,784 千円	7,834 千円	2,641 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	町内博物館施設のネットワークを構成する分館として、地域の歴史を適切に伝えていくとともに、文化遺産を活かしたまちづくりを推進するため、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	法及び条例の趣旨に沿い、公平に運営している。 なお、本館の入館料は無料である。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、 事業が効率的に行われているか	A 適切である	文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び平成30年度策定「下諏訪町立博物館基本的運営方針」に基づき適切に運営している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	A 目標値以上である	リニューアルした常設展示と定期的な企画展及び整備が完了した「歴史のこみち」と中庭により、来館する方が増えた。

総合評価	拡充	町内外を問わず多くの方へ地域の歴史文化情報を発信する施設として、地域の文化遺産を体感する場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	博物館が所管替えにより産業振興課の所管となるため。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	今井邦子文学館の管理運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-10-05-01・10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年	月 ~	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)
根拠法令等の名称	町博物館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	日本を代表するアララギ派女性歌人であり、女性だけの短歌誌「明日香」を創刊した今井邦子を顕彰する施設として、適切な維持管理を図るとともに、明日香を通じた文学を学習できる場として事業展開を図る。 併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	4,000	4,000	4,000
				実 績	3,094	2,835	
				達成率	77.4%	70.9%	

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	2,184 千円	1,951 千円	1,962 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.21 人 1,406 千円	0.21 人 1,386 千円	0.30 人 1,968 千円
事業費合計 C (A+B)		3,590 千円	3,337 千円	3,930 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		3,590 千円	3,337 千円	3,930 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 町内博物館施設のネットワークを構成する分館として、地域の歴史を適切に伝えていくとともに、文化遺産を活かしたまちづくりを推進するため、直営による運営が必要である。
公平性	A	適切である 法及び条例の趣旨に沿い、公平に運営している。 なお、本館の入館料は無料である。
効率性	A	適切である 文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び平成30年度策定「下諏訪町立博物館基本的運営方針」に基づき適切に運営している。
達成度	C	目標値以下である 事業展開が図り切れなかった。

総合評価	拡 充	町内外を問わず多くの方へ地域の歴史文化情報を発信する施設として、地域の文化遺産を体感する場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	伏見屋邸の管理運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-11-05-01・10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町博物館条例、町文化財保護条例、文化財保護法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国登録有形文化財「旧伏見屋邸店舗兼主屋及び南北土蔵」を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代へ伝承させるとともに、伏見屋邸サポート倶楽部による「おもてなし」を中心とする活動への支援を通じて、文化財を大切に残し伝えていくことへの理解の普及と啓発を図る。併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標 実 績 達成率	10,000 11,676 116.8%	10,000 9,873 98.7%	10,000

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	3,260 千円	3,381 千円	3,567 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.18 人 1,205 千円	0.17 人 1,122 千円	0.20 人 1,312 千円
事業費合計 C (A+B)		4,465 千円	4,503 千円	4,879 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		4,465 千円	4,503 千円	4,879 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	当町が所有する国登録文化財である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	法及び条例の趣旨に沿い、またボランティアによる「伏見屋邸サポート倶楽部」の活動の場として、公平に運営されている。なお、本館の入館料は無料である。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、 事業が効率的に行われているか	A 適切である	文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び平成30年度策定「下諏訪町立博物館基本的運営方針」に基づき適切に運営している。また伏見屋邸サポート倶楽部に皆さんが活き活きと活動することで、伏見屋邸の存在価値を高めていただいている。
達成度 事業の活動成果は目標 を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下 である	伏見屋邸サポート倶楽部の皆さんによる「おもてなし」は、訪れる方にとっても好評である。目標値を下回ったのは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う旅行自粛が大きく影響したためである。

総合評価	拡 充	法の趣旨に基づき、今後も適切な維持と保存を図るとともに、町内外を問わず多くの方へ地域の歴史文化情報を発信する施設として、地域の文化遺産を体感する場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
	現状維持	博物館が所管替えにより産業振興課の所管となるため。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔ミュージアムの管理運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-12-05-01・10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	その他		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	町文化財センター星ヶ塔ミュージアム条例、町観光施設に関する条例、町公の施設の指定管理者の指定手続き等に関する条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国有林内に所在していることから利活用が制限される「国指定史跡星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」のガイダンス施設として、指定管理者と連携し適切な維持管理を図るとともに、埋蔵文化財を通じた下諏訪の歴史を学習する場として事業展開を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者数 (年間入館者数)	当館と一体的に運営されている「しもすわ今昔館」の入館者の人数をカウント	人	目標	15,000	15,000	-
				実績	11,664	8,841	
				達成率	77.8%	58.9%	

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	6,279 千円	5,202 千円	千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.21 人 1,406 千円	0.27 人 1,782 千円	人 0 千円
事業費合計 C (A+B)		7,685 千円	6,984 千円	0 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		7,685 千円	6,984 千円	0 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	#DIV/0! %

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	D 町が行う必要はない	指定管理者制度を導入済み。 なお、展示等の事業は当町直営で実施。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	一体的に運営される「しもすわ今昔館」として入館料を徴収。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	「しもすわ今昔館」として指定管理者により効率的に運営されている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下である	事業展開の不足。

総合評価	手法改善	事業展開を集中的に図る体制とする。
	手法改善の内容	所管替えに伴い、施設管理については観光係で執行。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡充	博物館が所管替えにより産業振興課の所管となることに伴い、星ヶ塔ミュージアムを「しもすわ今昔館」として一体的に管理するため観光係へ移管する。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	文化財保護事業				担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-06-10-01				担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直営	委託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	町文化財保護条例、文化財保護法					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国指定天然記念物「八島ヶ原高層湿原」ほか指定文化財を適切に保護することで次世代へ良好な状態で伝承していくとともに、本物が有する魅力を、町内外を問わず多くの方に体感していただけるよう活用を図ることで文化財を大切に残し伝承してく心の醸成を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	町指定文化財の件数	指定により保護し、焼失等を防ぐことで維持し続けている指定文化財件数をカウント	件	目標 実績 達成率	54 55 101.9%	55 55 100.0%	55

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	6,360 千円	2,305 千円	2,663 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	5.00 人 945 千円	5.00 人 980 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.45 人 3,012 千円	0.22 人 1,452 千円	0.35 人 2,296 千円
事業費合計 C (A+B)		9,372 千円	3,757 千円	4,959 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		9,372 千円	3,757 千円	4,959 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B 町以外では行えない	文化財保護法の趣旨に沿って行うもの。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	所有者の御意思を尊重する中で、また町文化財専門委員会ほか有識者の意見を聴く中で、適切に指定し保護を図るとともに、保存修理に係る費用を補助している。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	文化財パトロール、文化財現況調査等により、文化財の劣化状態を効率的に把握するよう努めている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値どおりである	令和元年度は新たな指定物件はなかった。 なお、火災等による滅失もなかった。

総合評価	拡充	観光部署との協調による文化財の魅力情報の発信や文化遺産を体感できるような事業の展開を図ることで、文化財を大切にすることを醸成し、また誘客を促進させる。
	現状維持	文化庁の方針及び産業振興課への所管替えにより、活用を強化する。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	七曜星社蔵の管理			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	10-04-01-10-01			担当係名	博物館
事業区分	単年度予算	運営方法	直営		
事業の開始・終了	年	月	～	年	月
根拠法令等の名称	町博物館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何をを行うか)	製系組合「七曜星社」の遺構であり、当町における製系業勃興期の面影を今に残す貴重な建築物を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代へ伝承させるとともに、製系業を中心とする近代産業に関する事業を通じて文化財を大切に残し伝えていくことへの理解の普及と啓発を図る。併せて、観光部署と協調した文化遺産情報の発信を通じて、町内外を問わず多くの方に当町の魅力を体感していただけるよう、また魅力に触れに来ていただけるよう、きっかけの提供を図る。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)		無人施設であることから、利用者数を指標とすることができない		目標 実績 達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
事業費	事業費 A	21 千円	19 千円	22 千円
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.25 人 1,674 千円	0.32 人 2,112 千円	0.30 人 1,968 千円
事業費合計 C (A+B)		1,695 千円	2,131 千円	1,990 千円
財源内訳	特定財源			
	国の負担	千円	千円	千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		1,695 千円	2,131 千円	1,990 千円
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性	B	町以外では行えない 町内博物館施設のネットワークを構成する分館として、地域の歴史を適切に伝えていくとともに、文化遺産を活かしたまちづくりを推進するため、直営による運営が必要である。
公平性	A	適切である 法及び条例の趣旨に沿い、公平に運営している。なお、本館の入館料は無料である。
効率性	A	適切である 無人の施設である。なお、開閉は近隣の伏見屋邸の管理者にお願いしている。
達成度		事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)

総合評価	現状維持	町内外を問わず多くの方へ地域の歴史文化情報を発信する施設として、地域の文化遺産を体感する場として、観光部署との協調、関係団体との連携及び住民との協働により、適切に運営していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	